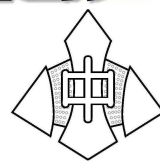


手をたずさえて

“小原田PRIDE”～自信と誇り

- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒



令和3年8月25日（水）発行
【発行責任者】郡山市立小原田中学校長 熊坂 洋

どんな35日間でしたか？…第2学期のスタートです！

35日間の夏休みが終了し、83日間の第2学期がスタートしました。東京オリンピックでの感動も束の間、新型コロナウイルス感染拡大の勢いが止まりません。出口の見えない第5波の中でのスタートです。今までで一番厳しい状況になることも想定されます。当分の間、様々な制限が続くこととなります。慣れっこになってしまった感のある感染症対策を手を抜くことなく徹底すると同時に、学校行事等を見直す必要はありますが、知恵と工夫を結集させながら学校生活に潤いと活気を生み出していきたいと思ひます。

『人間万事“塞翁が馬”』

第2学期始業式 校長講話より

『人間万事“塞翁が馬”』（にんげんばんじ “さいおうがうま”）… この言葉を聞いたことがありますか？

意味は、人生における幸不幸は予測しがたいということ。幸せが不幸に、不幸が幸せにいつ転じるかわからないのだから、安易に（簡単に）喜んだり悲しんだりするべきではないということの意味する中国の故事です。

この『人間万事塞翁が馬』は、2012年にノーベル生理学・医学賞を受賞した、京都大学の山中伸弥教授^{やまなかしんや}の座右の銘でもあります。



山中教授のノーベル賞受賞業績は、人類の未来に大きく貢献するであろう、新型万能細胞、いわゆる「iPS細胞」（神経や筋肉などいろいろな体の部分になることができる細胞で、我々が病気やけがをしたときに、復活させてくれるすごい細胞）を作ったことですが、その道のりは決して平坦なものではなかったのです。

山中教授は、大学時代、ラグビーに打ち込み、けがが絶えなかったそうです。そして、そのけがを治す医師の姿にあこがれ、整形外科医を志しました。山中教授の言葉です。

「けがというネガティブなことから人生の目標ができた。人生は『塞翁が馬』という言葉を意識するようになった」けがという不幸が、医師の道をめざすという幸運に転じた、ということです。

しかし、山中教授は、ここで大きな挫折を味わうことになります。うまくやれば20分の手術が2時間かかったというから、よほど不器用だったのでしょう。邪魔で足手まといの“ジャマナカ”と、先輩医師からは残酷なあだ名までもらいました。そして、山中教授は、整形外科医の道をあきらめ、病気の原因などを追究する基礎医学の道に自分の活路を求めました。やがて、iPS細胞の作製を2006年に発表してから、6年でノーベル賞をスピード受賞したのです。

「成功するには、その前に平均して9回は失敗しないと、うまくいかない。振り返って人生全体でも、実験でもそうだ。失敗すればするほど幸運が来る」

山中教授のこの言葉は、まさに『人間万事“塞翁が馬”』を表しています。

臨時休業措置、様々な行事の中止・縮小、制限、そんな困難の中で卒業していった昨年度の3年生。今年度は状況が改善され、学校の日常が戻っていくのではという望みがありました。しかしながら、厳しい状況の下での2学期のスタートになってしまいました。コロナ渦の中での学校生活は確かに不幸なことかもしれません。しかし、我々の心の姿勢や行動によって、不幸が幸福に転じていく可能性もあります。

『人間万事“塞翁が馬”』…心に留めておきたい言葉です。



さて、本市では7月下旬以降、陽性者数が2桁になるなど感染拡大傾向が続き、8月12～18日の1週間では、人口10万人当たりの新規陽性者数は「47.97人」とステージ4の水準となり、10～30代の若い世代の感染者が約6割を占めるなど、厳しい状況にあります。本市は、8月23日（月）から「まん延防止等重点措置区域」の適用を受けました。それを受けて、9月12日（日）までの期間、学校として次のとおり対応していきます。

「まん延防止等重点措置」期間中の対応について、郡山市教育委員会と学校からの通知を見ながら、授業や学校行事等の教育活動や部活動の実施や家庭での対応について確認する。

併せて、『生活のしかた～新型コロナウイルス感染対策』の改訂版を見て下さい。慣れっこになってしまった感のある“感染症対策”ですが、もう一度見直し、確実に実行していく必要があります。感染症予防に特別な方法はありません。運動以外はマスク着用、こまめな手洗い・消毒、休み時間ごとの換気など、基本的な感染症対策を徹底していきましょう。

しばらくの間は“我慢の時”が続きます。『人間万事“塞翁が馬”』…これからの辛抱が、やがて幸せに転じていくことを信じていきたいと思います。



生活のしかた ～新型コロナウイルス感染対策～

【第3版】2021.08.25～

郡山市立小原田中学校

感染症対策の徹底と継続が、家族・友達・自分自身を守る!!

運動以外はマスク着用、こまめな手洗い・消毒、休み時間ごとの換気、落ち着いた生活

登校前	☐ 朝の検温、咳症状の確認を行い、「健康観察記録表」に記入する。 ☐ 保護者のサイン（押印）をもらう。 ☐ 発熱がある場合は、自宅で休養する。保護者に学校に連絡してもらう。
登校時	☐ 交通ルールを守り、8:05までに昇降口を通過する。 ☐ 登下校時も原則マスクを着用する。 ☐ 手指消毒、手洗い・うがいを教室に入る。
登校後 朝の時間	☐ マスクを着用する。 ☐ 「健康観察記録表」を提出する。検温を忘れた場合は学校で検温する。 ☐ 教室の換気をする。（廊下側の出入口と校庭側の窓を空ける。サーキュレーターや扇風機を上手に活用する）
授業	☐ 授業では、マスクを着用し、感染リスクに注意しながら活動する。（保健体育の実技等については、マスクをはずしてよい） ☐ 授業中も必要に応じて換気を行う。 ☐ 実験や実習、実技の授業では、活動の前後に手洗いを行う。 ☐ 先生の指示にしたがって学習を進める。
休み時間	☐ 休み時間には必ず換気を行う。（廊下側の出入口と校庭側の窓を空ける） ☐ 特別教室での授業では、その教室に移動したら換気を行う。 ☐ 特別教室や体育の授業から教室に戻る前には、手洗い・うがいを行う。 ☐ トイレの後にも手洗いを行う。 ☐ 密集したり、大声を出して騒いだり、廊下を走ったりせず、落ち着いた生活で過ごす。
給食時	☐ 給食の配膳前、食事前には手洗いを行う。 ☐ 机を向かい合わせにせず、会話を控えながら食事をする。
昼休み 清掃	☐ 休み時間には必ず換気を行う。（廊下側の出入口と校庭側の窓を空ける） ☐ 戸や窓を開けるとともに、自問清掃に取り組む。 ☐ 清掃終了後には、手洗い・うがいを行う。
短学活 部活動	☐ 1日を振り返り、明日の準備を『自分に打ちかて』に記入する。 ☐ 顧問・担当の先生の指示に従いながら活動する。 ☐ 時間を有効に使い、効率的に集中して活動する。 ☐ 運動以外の時は、マスクを着用する。 ☐ 下校時間を厳守するとともに、マスクを着用し、寄り道や立ち話をせずに真っ直ぐ帰宅する。交通事故には十分注意する。
帰宅後	☐ 帰宅後、消毒・手洗い・うがいを必ず行う。 ☐ 塾や習い事に行く場合も、マスクの着用・消毒・手洗い等の感染症対策を確実に実行する。 ☐ 不要不急の外出はできるだけ避ける。 ☐ 家族がPCR検査を受けた場合は、結果が出るまで、登校は控え自宅過ごす。

整備された“校歌石碑”

創立60周年記念環境整備事業として、8月17日（火）には玄関前の樹木剪定が行われ、樹木に隠れていた“校歌石碑”がはっきりと姿を現し、周辺の樹木もすっきりとしました。次は、東部幹線に建てられている看板改修を行います。



保護者の皆様へ 2学期もよろしくお願いいたします!

現時点で事故等の報告は受けておりません。保護者の皆様のご協力により事故なく2学期を迎えることができました。感謝いたします。

しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大は止みません。変異株への置き換わりが進み、若い世代の感染者が急増しています。8月23日（月）からは本市においても「まん延防止等重点措置」が適用されました。これを受け、学校でも危機意識を保持しながら感染症対策をより一層徹底するとともに、学校行事等を見直していく必要も出てまいりました。直近開催予定であった9月4日（土）の「1・3学年PTA奉仕作業」及び9月10日（金）の「授業参観」については中止とさせていただきます。

本日、「まん延防止等重点措置」期間中の対応について、郡山市教育委員会と学校からの通知を生徒に配付しましたので、確認をお願いいたします。併せて、ご家庭での感染症対策についても徹底と継続をお願いいたします。感染状況を注視しながら、文書、ホームページ、マチコミメール等で適宜情報提供してまいります。前途多難な2学期のスタートですが、保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

